

地域を
変える
チカラに

地域おこし
協力隊

活動報告

田中 綾音さん

吉田 有志さん

荒れる海、強い風。3年目のナゴシドンは、そんな天候の中で無事おこなわれました。この記事を書き手が読む頃にはだいぶ時期外れな話題ですが、この場を借りて、ご参加・ご協力・ご観覧のお礼を申し上げます。

地域の行事に3年間関わってみて、思った以上に変化したこと、変化しなかったことがありました。

変化したことは、よそから毎年ナゴシドンに参加して運営を担ってくれる人ができたこと、参加したい・来年もやりたいと手を挙げる人が地元でできたこと、「まいた種が芽吹いてきたね、絶やさないといいね。」と地元の人が言うようになったこと。よそから注目されて人の出入りが起きたことによる、目には見えないけれど嬉しい変化です。

なかなか変化しなかったのは、運営の難しさ。少子高齢化が進み、担い手が足りない地域の中で行事を継続して行うことの難しさを、毎年感じました。一方で、ナゴシドンに対する期待の声も毎年変わらずありました。よい方向に昇華していけるよう、来年もまた知恵を絞りたいと思います。

20代の頃にお金を貯めて、ハンスJウェグナーというデンマークのデザイナーが設計したザ・チェア（椅子）のオリジナルを購入した。その椅子の座り心地やカタチが好きだった。そして、世間の評価が高いということも僕にとってその椅子の魅力の一つだったのかもしれない。その時は本気でそう思ってた。ある時から世界的に有名な巨匠の設計したそれに心地悪さを感じ始めた。椅子に座ってホッとしたのに、心のどこかが少しソワソワしている。鈍感なので気がつくのに時間がかかったが、そういう椅子は僕には合わなかった。先日、高山の門倉木工の門倉功さん（写真は上部に掲載）に甘えて、自分の感覚を投影した胡座椅子を廃材と端材で作った。完成度は低いけど、妙に心が落ち着く。

食べ物も普段の生活で使うものも、なるべく自分の感覚を信じて手を使いつくる。それはモノが溢れる現代社会において時代遅れなのかもしれない。でも、そこに人間成長のきっかけがあるはずだ。僕の地域おこし活動はそこに焦点を当てる。